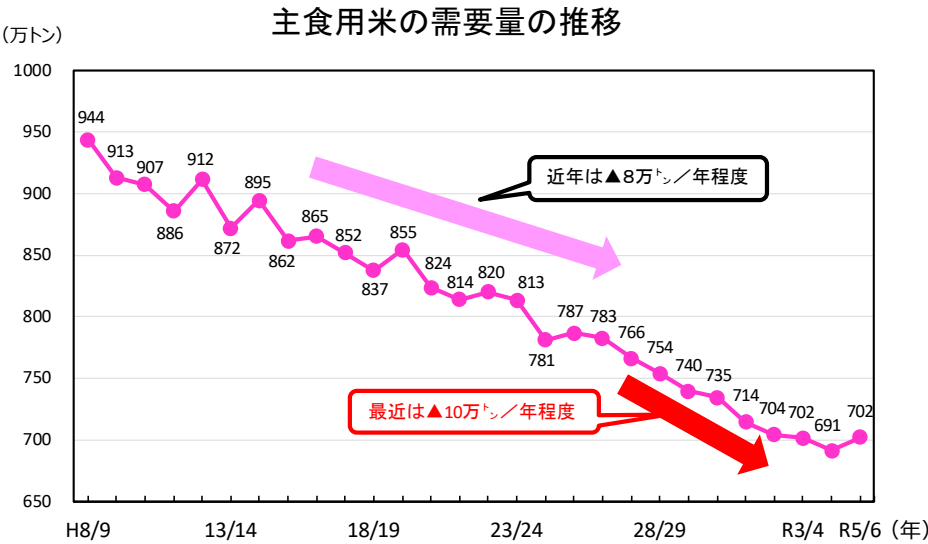


主食用米等の令和5/6年の需給実績及び令和6/7年の需給見通し（令和6年7月公表基本指針）

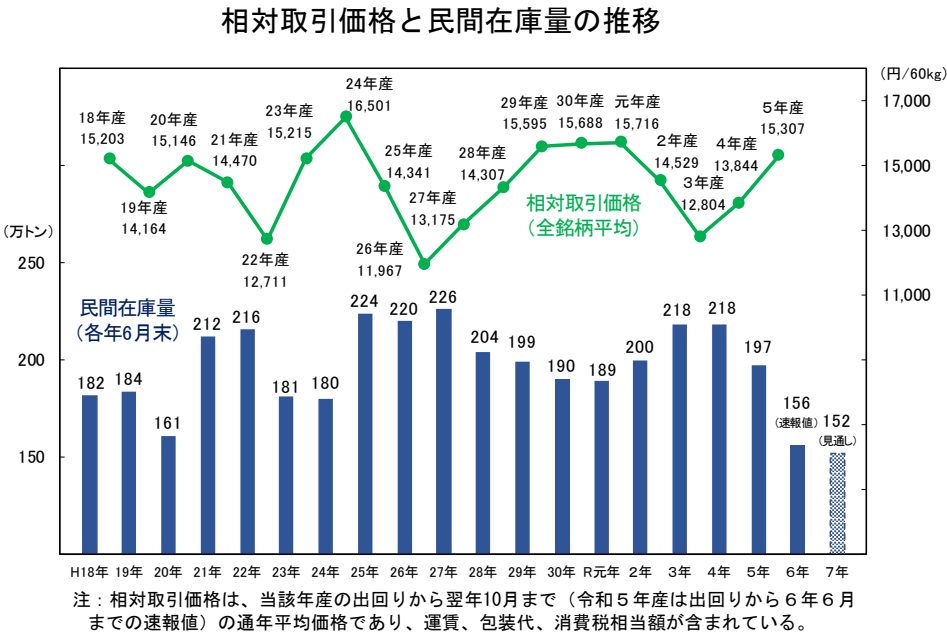
【令和5/6年の主食用米等の需給実績（速報値）】

(単位: 万トン)		
令和5年6月末民間在庫量	A	197
令和5年産主食用米等生産量	B	661
令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	858
令和5/6年主食用米等需要量	D	702
令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	156



【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)		
令和6年6月末民間在庫量	E	156
令和6年産主食用米等生産量	F	669
令和6/7年主食用米等供給量計	G=E+F	825
令和6/7年主食用米等需要量	H	673
令和7年6月末民間在庫量	I=G-H	152

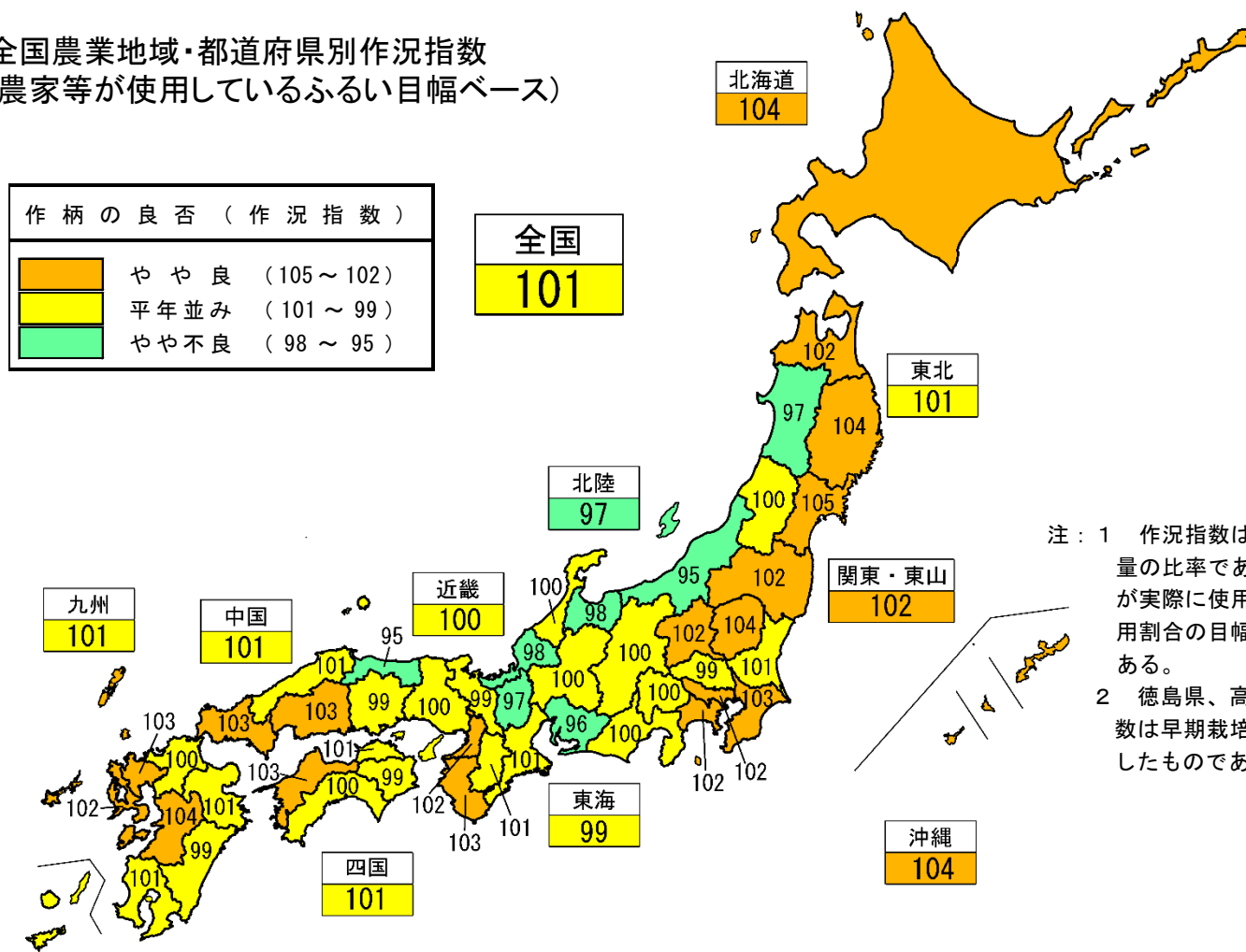


注1：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和5年産水稻の作付面積及び収穫量

- 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった。
- 全国の10a当たり収量（1.70mmのふるい目幅ベース）は533kg。
- 主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた主食用の収穫量は661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）となった。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101。

全国農業地域・都道府県別作況指数
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）

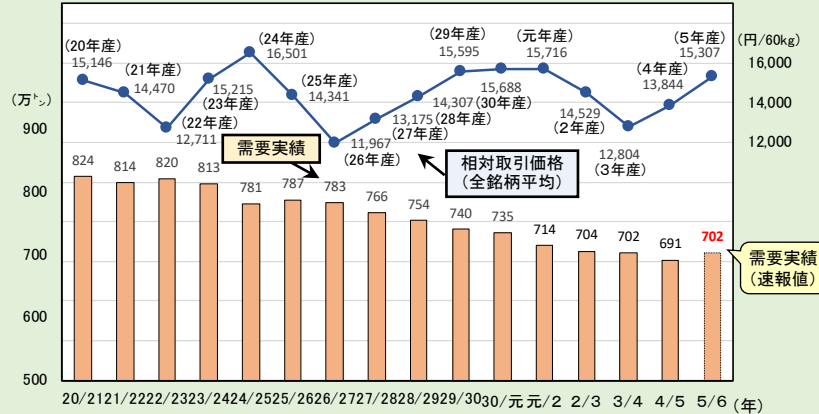


- 注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

米の基本指針のポイント

最近の需要動向

【最近における米の需要と価格の動向】



注：5年度の相対取引価格については、出回りから6年6月までの平均価格。

【5/6年の需要動向】

- 令和6年6月末民間在庫量は、令和5年産米の高温・渇水の影響による精米歩留まりの低下（1等比率の低下等）や、令和3年9月から食料品全体の価格の上昇が続く中で、米の価格は相対的に上昇が緩やかであったことを背景に消費がやや増加したと見込まれることから、前年（197万トン）から41万トン低い156万トン（速報値）となった。
- この結果、5/6年の需要実績は、前年（691万トン）から11万トン（1.6%）多い702万トン（速報値）となった。

＜民間流通における6月末在庫量等の推移＞

（単位：万トン、%）

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年 (速報値)
民間在庫	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199	190	189	200	218	218	197	156
需要量との比率	18.8%	25.8%	26.5%	22.0%	22.1%	28.6%	28.0%	28.9%	26.6%	26.4%	25.7%	25.7%	28.0%	31.0%	31.0%	28.4%	22.2%

今後の見通し等

【前回(3月5日)】

- 5/6年及び6/7年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

令和5/6年	令和5年6月末民間在庫量	A	197
	令和5年産主食用米等生産量	B	661
	令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	858
	令和5/6年主食用米等需要量	D	681
	令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	177

（単位：万トン）

令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	E	177
	令和6年産主食用米等生産量	F	669
	令和6/7年主食用米等供給量計	G=E+F	846
	令和6/7年主食用米等需要量	H	670
	令和7年6月末民間在庫量	I=G-H	176

注1：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

【今回(7月30日)】

- 5/6年の主食用米等の需給実績(速報値)及び6/7年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

令和5/6年	令和5年6月末民間在庫量	A	197
	令和5年産主食用米等生産量	B	661
	令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	858
	令和5/6年主食用米等需要量	D	702
	令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	156

（単位：万トン）

令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	E	156
	令和6年産主食用米等生産量	F	669
	令和6/7年主食用米等供給量計	G=E+F	825
	令和6/7年主食用米等需要量	H	673
	令和7年6月末民間在庫量	I=G-H	152

注1：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

米の基本指針のポイント

主食用米等の需要見通し

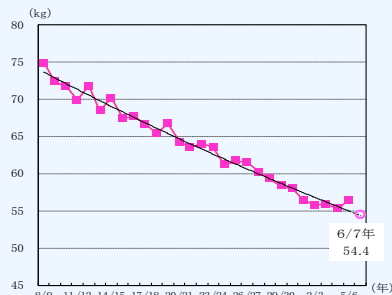
【6/7年の主食用米等の需要見通し】

- 直近の5/6年の需要実績を用いて、6/7年の需要見通しを、30年11月の基本指針において採用した手法（1人当たり消費量（推計値）に人口（推計値）を乗じる手法）により算出すると、**673万トン**となる。

年	需要実績 ①	人口 ②	1人当たり 消費量 ①/②
	千トン	千人	kg
8/9	943.8	125,859	75.0
9/10	912.9	126,157	72.4
10/11	907.3	126,472	71.7
11/12	885.9	126,667	69.9
12/13	911.5	126,926	71.8
13/14	872.1	127,316	68.5
14/15	894.7	127,486	70.2
15/16	861.6	127,694	67.5
16/17	865.4	127,787	67.7
17/18	851.7	127,768	66.7
18/19	837.5	127,901	65.5
19/20	854.5	128,033	66.7
20/21	823.6	128,084	64.3
21/22	814.1	128,032	63.6
22/23	820.0	128,057	64.0
23/24	813.3	127,834	63.6
24/25	781.1	127,593	61.2
25/26	786.6	127,414	61.7
26/27	782.5	127,237	61.5
27/28	766.2	127,095	60.3
28/29	754.0	127,042	59.4
29/30	739.6	126,919	58.3
30/元	734.6	126,749	58.0
元/2	714.4	126,555	56.4
2/3	704.0	126,146	55.8
3/4	701.5	125,502	55.9
4/5	691.1	124,947	55.3
5/6	701.9	124,352	56.4

注：人口は、総務省「人口推計」の各年10月1日現在の値である。

年	x	1人当たり 消費量(y)
8/9	1	75.0
9/10	2	72.4
10/11	3	71.7
11/12	4	69.9
12/13	5	71.8
13/14	6	68.5
14/15	7	70.2
15/16	8	67.5
16/17	9	67.7
17/18	10	66.7
18/19	11	65.5
19/20	12	66.7
20/21	13	64.3
21/22	14	63.6
22/23	15	64.0
23/24	16	63.6
24/25	17	61.2
25/26	18	61.7
26/27	19	61.5
27/28	20	60.3
28/29	21	59.4
29/30	22	58.3
30/元	23	58.0
元/2	24	56.4
2/3	25	55.8
3/4	26	55.9
4/5	27	55.3
5/6	28	56.4
6/7	29	54.4



<推計式>

【前回(3月5日)】

$$y = 74.65283e^{-0.01106x}$$

$$R^2 = 0.97966$$

【今回(7月30日)】

$$y = 74.49197e^{-0.01084x}$$

$$R^2 = 0.97833$$

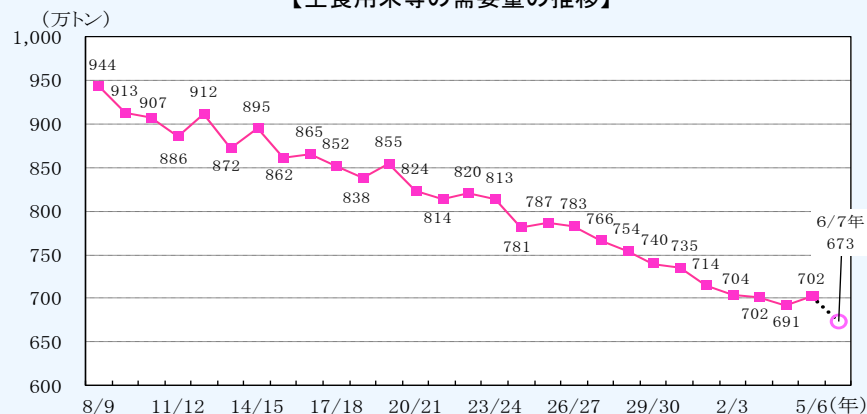
【前回(3月5日)】

	6/7年
1人当たり消費量(推計値) ①	54.2kg
	6年
人口(推計値) ②	123,776千人
	6/7年
需要見通し ①×②	670.4万トン

【今回(7月30日)】

6/7年
54.4kg
6年
123,788千人
6/7年
673.4万トン

【主食用米等の需要量の推移】



備蓄運営

【6/7年の備蓄運営】

		(単位:万トン)
令和6年6月末備蓄量	A	91
令和6年産米買入契約数量	B	17
令和6/7年非主食用販売量	C	9~17
令和7年6月末備蓄量	D=A+B-C	91~99

【加工用向けの備蓄後の備蓄米の販売】

【前回(3月5日)】

備蓄米は、備蓄後に飼料用等の非主食用として販売

【今回(7月30日)】

備蓄米は、備蓄後に飼料用等の非主食用として販売

なお、加工原材料用販売(注)については、前年産の加工原材料用の国内産米の供給量が大きく減少し、米加工品製造業者による当年産への切替えの前倒し及びミニマム・アクセス米への代替が行われてもなお端境期の供給が不足すると認められる場合において、当年8月以降の入札により行うものとする。

(注) 従来から販売している備蓄米のうち精米形態で保管する米穀の販売を除く。

民間在庫量と需要量の比率の推移

- 令和6年6月末の在庫量は、棚上備蓄方式となった平成23/24年以降最も少ない156万トンとなっているが、需要量の減少により、令和6年6月末の在庫量を年間の需要量で割った比率は22.2%と、平成24年6月末の22.1%と同水準となっている。

【在庫率の推移】

年	需要実績	上段:在庫量(出荷段階+販売段階) 下段:在庫率(月末の在庫量÷年間の需要量)												基本指針 ベース 6月
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
		(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	(万トン)	
20/21	824	66 8.0%	48 5.8%	134 16.3%	325 39.5%	351 42.6%	346 42.0%	322 39.1%	293 35.6%	257 31.2%	221 26.8%	195 23.7%	148 18.0%	212 25.8%
21/22	814	113 13.9%	93 11.4%	164 20.1%	349 42.9%	380 46.7%	372 45.7%	347 42.6%	320 39.3%	267 32.8%	228 28.0%	191 23.5%	154 18.9%	216 26.5%
22/23	820	118 14.4%	102 12.4%	212 25.9%	351 42.8%	372 45.4%	363 44.3%	339 41.3%	304 37.1%	238 29.0%	200 24.4%	156 19.0%	118 14.4%	181 22.0%
23/24	813	83 10.2%	55 6.8%	134 16.5%	298 36.6%	327 40.2%	320 39.3%	291 35.8%	259 31.8%	224 27.5%	185 22.7%	147 18.1%	113 13.9%	180 22.1%
24/25	781	78 10.0%	62 7.9%	167 21.4%	337 43.1%	357 45.7%	351 44.9%	324 41.5%	293 37.5%	264 33.8%	229 29.3%	190 24.3%	157 20.1%	224 28.6%
25/26	787	120 15.3%	104 13.2%	210 26.7%	368 46.8%	393 50.0%	389 49.5%	358 45.5%	330 42.0%	291 37.0%	258 32.8%	223 28.3%	190 24.2%	220 28.0%
26/27	783	119 15.2%	103 13.2%	198 25.3%	344 44.0%	368 47.0%	365 46.6%	343 43.8%	314 40.1%	280 35.8%	243 31.1%	208 26.6%	168 21.5%	226 28.9%
27/28	766	130 17.0%	112 14.6%	184 24.0%	321 41.9%	341 44.5%	337 44.0%	314 41.0%	287 37.5%	254 33.2%	218 28.5%	183 23.9%	147 19.2%	204 26.6%
28/29	754	114 15.1%	93 12.3%	177 23.5%	314 41.6%	338 44.8%	329 43.6%	306 40.6%	282 37.4%	248 32.9%	212 28.1%	177 23.5%	141 18.7%	199 26.4%
29/30	740	108 14.6%	88 11.9%	155 21.0%	283 38.3%	315 42.6%	311 42.0%	288 38.9%	263 35.6%	234 31.6%	201 27.2%	167 22.6%	134 18.1%	190 25.7%
30/元	735	102 13.9%	87 11.8%	151 20.6%	288 39.2%	305 41.5%	301 41.0%	282 38.4%	258 35.1%	227 30.9%	192 26.1%	161 21.9%	131 17.8%	189 25.7%
元/2	714	99 13.9%	79 11.1%	161 22.5%	294 41.2%	315 44.1%	318 44.5%	295 41.3%	266 37.2%	233 32.6%	204 28.6%	178 24.9%	154 21.6%	200 28.0%
2/3	704	119 16.9%	101 14.3%	190 27.0%	324 46.0%	344 48.9%	342 48.6%	321 45.6%	293 41.6%	265 37.6%	230 32.7%	199 28.3%	173 24.6%	218 31.0%
3/4	702	138 19.7%	118 16.8%	214 30.5%	330 47.0%	351 50.0%	349 49.8%	326 46.5%	299 42.6%	270 38.5%	238 33.9%	204 29.1%	172 24.5%	218 31.0%
4/5	691	142 20.5%	122 17.7%	199 28.8%	313 45.3%	330 47.7%	328 47.5%	306 44.3%	280 40.5%	251 36.3%	219 31.7%	186 26.9%	153 22.1%	197 28.4%
5/6	702	123 17.5%	104 14.8%	199 28.4%	289 41.2%	303 43.2%	298 42.5%	274 39.0%	244 34.8%	214 30.5%	180 25.6%	145 20.7%	115 16.4%	156 22.2%

※22/23年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

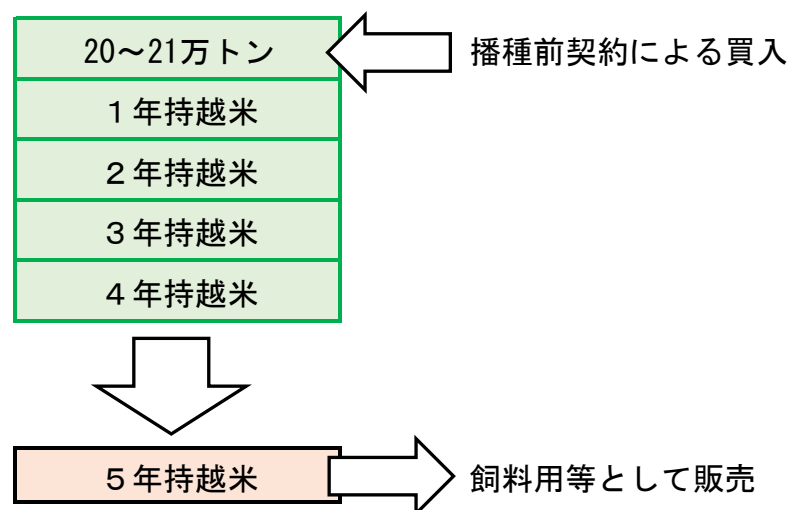
政府備蓄米の運営について

- 政府米の備蓄については、適正備蓄水準を100万トン程度として運用（10年に1度の不作（作況92）や、通常程度の不作（作況94）が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準）。
- 備蓄運営については、政府による買入・売渡が市場へ与える影響を避けるため、通常は主食用途に備蓄米の販売を行わない棚上備蓄を実施（備蓄米を供給するのは、大不作などの場合のみ）。
- 基本的な運用としては、適正備蓄水準100万トン程度を前提とし、毎年播種前に20万トン～21万トン（※）買入れ、通常は5年持越米となった段階で、飼料用等として販売。

※ 基本的な買入数量については、従来、毎年20万トン程度とし、CPTPP協定後は豪州枠の輸入量に相当する量を加えた21万トン程度としてきたが、会計検査院の指摘を踏まえ、今後、豪州枠の輸入量に相当する量の買入れは、実際に豪州から輸入される数量に見合った規模となるよう見直し。これに即して備蓄運営が行われれば、基本的な買入数量は20万トン～21万トンとなる。

基本的な政府備蓄米の運用

原則20～21万トン × 5年間程度 → 100万トン程度



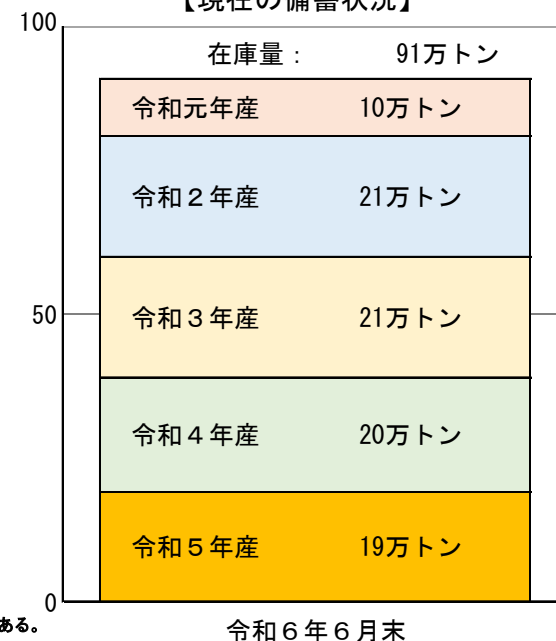
政府備蓄米の現在の在庫状況

【最近の買入数量】

令和元年産	18万トン
令和2年産	21万トン
令和3年産	21万トン
令和4年産	20万トン
令和5年産	19万トン
令和6年産	17万トン（予定）

注：ラウンドの関係で在庫量と内訳が一致しない場合がある。

【現在の備蓄状況】



【参考 関係法令等（抜粋）】

《主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成六年法律第百十三号）（抜粋）》

第二章 米穀の需給及び価格の安定を図るための措置

第一節 基本指針

第四条 農林水産大臣は、米穀の需給及び価格の安定を図るため、政令で定めるところにより、毎年、米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（以下「基本指針」という。）を定めるものとする。

2 基本指針においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

- 一 米穀の需給及び価格の安定に関する基本方針
- 二 米穀の需給の見通しに関する事項
- 三 米穀の備蓄の目標数量その他米穀の備蓄の運営に関する事項
- 四 米穀の輸入数量及びその種類別の数量に関する事項
- 五 その他米穀の需給及び価格の安定に関する重要事項

3～7（略）

《米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（令和6年3月）（抜粋）》

第3 米穀の備蓄の目標数量その他米穀の備蓄の運営に関する事項

1 備蓄運営の基本的な考え方

国が行う備蓄については、米穀の生産量の減少によりその供給が不足する事態に備え、必要な数量の米穀を在庫として保有することとされていることから、毎年6月末時点での在庫量100万トン程度を現行の適正水準として、需給状況を踏まえつつ必要な数量の米穀を保有することとします。

備蓄運営手法については、平成23年度から棚上備蓄方式に移行しました。

棚上備蓄方式による備蓄運営の基本的な考え方は、

①～④（略）

- ⑤ 大凶作や連続する不作などにより、民間在庫が著しく低下するなどの米が不足する時における備蓄米の放出については、食料・農業・農村政策審議会食糧部会において、放出の必要性に関し、作柄、在庫量、市場の状況、消費動向、価格及び物価動向等について総合的な観点から議論を行い、これを踏まえて、農林水産大臣が備蓄米の放出等を決定

としています。

（略）

大臣会見概要（抜粋）
（令和6年8月2日（金））

記者： 今週公表された6月末時点の民間在庫量について、統計が今の方式で取られ始めてから過去最低ということについて受け止めをお願いします。また、今年の米の作付意向調査について、16県が増産の意向を示していることについての受け止めと、今後の需給環境への見通しを聞かせてください。

大臣： 令和6年6月末の民間在庫量156万トンは6月末の民間在庫として把握している平成11年以降最低水準となっています。

しかしながら、主食用米の需要は、年々減少傾向にある中で、年間の需要量702万トンに対する民間在庫量の比率を見ると22.2%となっており、これは平成23年や平成24年の同時期とほぼ同水準であることから、新米の出回りまでに必要な在庫水準は確保されていると認識しています。

このため、先日の会見でも申し上げましたが、現時点で主食用米の全体需給としては、ひっ迫している状況であるとは考えていません。

また、7月30日に公表した6年産米の作付の動向を見ますと、各産地の6月末時点での作付意向は、主に主産県である16県が主食用米の作付を増加する意向となっています。収穫の早い産地は、今月には新米が出回り始め、9月からは主産地の出荷も始まります。

消費者の皆様方におかれましては、安心していただき、普段どおりにお米をお買い求めいただきたいと思います。

7月30日に公表した6年産の主食用米の6月末時点における作付意向は、前年の作付実績と比較して、増加傾向が16県、前年並みが18県、減少傾向が13県となり、4月末時点の前回調査と比較すると、増加傾向が5県増加、減少傾向が2県増加となりました。これは各産地が価格、在庫の動向など、直近の主食用米の需給の状況等を踏まえて、それぞれ判断された結果であると受け止めています。

引き続き、きめ細やかな需給情報等の提供を徹底し、需要に応じた生産・販売を推進してまいります。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況（令和6年6月末時点））①

- 6月末時点での各都道府県の主食用米の作付意向は、5年産と比べて、増加傾向16県、前年並み18県、減少傾向13県。
- 戦略作物については、加工用米、新市場開拓用米（輸出用米等）及びWCS用稲を増加傾向とする県が多い。特にWCS用稲については4月末時点と比較して、増加傾向とする県が25県から39県に増加。他方で、飼料用米は42県とほとんどの県で減少傾向。

【令和6年産米等の作付意向（前年産実績との比較、令和6年6月末時点）】下段〔 〕は4月末時点の作付意向

	主食用米	戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場 開拓用米 （輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔 稲発酵粗 飼料用稲 〕	麦	大豆	
前年より 増加傾向	16県 〔11県〕	20県 〔20県〕	29県 〔26県〕	19県 〔20県〕	2県 〔1県〕	39県 〔25県〕	17県 〔24県〕	6県 〔7県〕	6県 〔5県〕
前年並み	18県 〔25県〕	8県 〔10県〕	4県 〔6県〕	1県 〔9県〕	2県 〔9県〕	3県 〔15県〕	11県 〔10県〕	8県 〔12県〕	2県 〔5県〕
前年より 減少傾向	13県 〔11県〕	16県 〔14県〕	5県 〔6県〕	26県 〔16県〕	42県 〔36県〕	4県 〔6県〕	17県 〔11県〕	31県 〔26県〕	23県 〔21県〕

注1：令和6年産の意向（増加傾向、前年並み、減少傾向）は、5年産実績との比較。
2：比較している主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況（令和6年6月末時点））②

都道府県	主食用米			戦略作物												備蓄米	
	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆	
		6月末時点 (今回公表)	4月末時点 (前回公表)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)
全国計	124.2万			48,797		9,091		7,587		133,925		53,055		104,958		88,164	
北海道	82,200	↗	↗	6,920	↘	1,974	↗	143	↗	6,788	↘	1,594	↗	34,172	↘	17,926	↘
青森	33,800	↗	↗	787	↘	321	↗	12	↘	7,930	↘	788	↗	557	↘	4,832	→
岩手	42,800	→	→	1,283	→	417	↗	30	↘	5,739	↘	2,396	↗	3,520	→	4,218	↘
宮城	57,200	↗	↗	626	↗	894	↗	103	↘	9,801	↘	2,757	↗	2,188	↗	9,542	↘
秋田	69,900	↗	→	8,264	↗	500	↗	329	↗	4,265	↘	1,235	↗	182	↘	8,713	↗
山形	52,400	→	→	4,516	→	440	↗	112	↘	5,138	↘	1,239	↗	74	↗	4,658	↘
福島	53,100	↗	↗	448	↘	142	↗	12	↗	11,722	↘	1,079	↗	340	→	909	↘
茨城	57,800	↗	↗	947	↗	762	↗	55	↗	13,886	↘	653	↘	4,038	→	775	↘
栃木	47,200	↗	↗	1,513	↗	70	↘	1,418	↘	15,069	↘	2,177	↗	7,501	→	420	↘
群馬	12,400	↗	↗	1,389	↘	0	↗	168	↗	1,661	↘	621	↗	2,187	↗	119	↗
埼玉	27,500	↗	→	144	↗	52	↗	769	↗	3,605	↘	124	→	1,877	↗	383	↘
千葉	45,800	↗	↗	1,672	↗	35	↗	135	↘	10,154	↘	1,316	↗	445	↘	263	→
東京	111	→	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,850	→	→	-	-	-	-	-	↗	13	↘	2	↗	4	→	6	→
新潟	100,600	→	→	7,093	↘	1,586	↗	1,784	↘	4,032	↘	533	↗	189	↗	3,997	↘
富山	31,200	→	→	1,220	↘	342	↗	266	↗	2,096	↘	480	↗	2,834	→	4,165	↘
石川	20,800	→	→	481	↗	65	↗	371	↘	1,131	↘	127	↘	1,198	↗	981	→
福井	21,500	↗	↗	322	↗	132	↗	213	↘	1,976	↘	160	↗	5,210	→	76	↗
山梨	4,660	↘	↘	62	↗	-	-	29	↘	21	↘	18	↗	62	→	99	→
長野	29,300	→	→	733	→	245	↗	24	↗	429	↘	265	↗	2,553	↘	671	↘
岐阜	19,700	→	→	741	↗	78	↗	65	↘	3,496	↘	303	↗	3,689	→	359	↘
静岡	15,000	→	→	105	↘	1	→	8	↗	1,011	↘	330	→	244	↗	38	↘
愛知	24,700	↗	↗	573	↗	44	→	278	↗	2,040	↘	182	→	5,646	→	70	→
三重	24,900	→	→	168	→	54	↗	95	↘	2,426	↘	303	↗	7,050	↗	188	↘

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向(対前年実績)」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」(1%超増加)、「→：前年並み」(増減1%以内)、「↘：減少傾向」(1%超減少)で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況(令和6年6月末時点)）③

都道府県	主食用米			戦略作物												備蓄米	
	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆	
		6月末時点 (今回公表)	4月末時点 (前回公表)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)
滋賀	27,000	↗	→	608	↘	205	↗	58	↘	2,033	↘	310	↗	8,222	↗	591	↘
京都	13,200	→	→	551	↘	25	↗	10	↗	133	↘	158	↗	290	↘	266	↘
大阪	4,430	↘	↘	0	↗	-	-	5	↘	6	↘	4	↗	2	↘	8	↘
兵庫	32,500	↘	↘	674	→	185	→	48	↘	819	↘	972	↗	1,932	↗	1,658	↘
奈良	8,200	→	→	19	↘	-	-	36	↘	50	↘	43	↘	68	→	22	→
和歌山	5,780	→	→	-	-	-	-	1	↗	3	↘	4	↘	4	↗	11	↘
鳥取	11,700	→	→	25	↘	33	↗	0	↗	821	↘	392	↗	68	↗	619	↘
島根	15,900	↘	↘	252	↘	2	→	7	↗	804	↘	745	↗	280	↘	631	↘
岡山	26,900	↗	↘	295	↘	189	↘	120	↘	1,824	↘	475	↗	1,269	↘	1,116	↘
広島	20,500	↘	→	351	↗	44	↗	96	↘	443	↘	708	↗	318	↘	225	↗
山口	16,000	↘	↘	976	→	86	↗	43	↘	1,108	↘	410	↗	711	↗	816	↘
徳島	9,480	↗	↗	20	→	40	↘	11	↗	1,007	↘	247	↗	55	↘	7	↘
香川	10,100	↘	↘	48	↗	28	↗	7	↘	195	↗	269	↗	1,322	↘	39	↘
愛媛	12,800	→	→	34	↗	-	-	6	↘	344	→	217	↗	430	↗	313	↗
高知	10,200	→	→	84	↗	-	-	18	↗	1,135	↘	321	↗	5	↘	54	↘
福岡	32,300	↘	→	224	↘	12	↗	322	↘	2,475	↘	2,068	↗	1,141	↘	7,794	↘
佐賀	21,700	↗	→	406	↘	8	↗	19	↘	829	↘	2,246	↗	1,412	↘	6,251	↗
長崎	10,000	↘	↘	6	↘	10	↘	4	↗	117	↗	1,549	↗	78	↗	256	↘
熊本	28,900	→	→	672	→	41	↗	309	↘	1,646	↘	9,167	↗	797	↘	2,246	↘
大分	18,100	↘	↘	148	↗	2	↗	13	↘	1,932	↘	2,758	↗	703	↗	1,317	↘
宮崎	12,700	↘	↘	1,978	↗	22	↗	22	→	887	→	7,207	↗	18	↘	207	→
鹿児島	15,800	↘	↘	1,389	↗	1	↘	12	↘	880	↘	4,081	↗	75	↗	310	↘
沖縄	544	↘	→	30	↗	-	-	2	↗	3	↘	22	↗	-	-	-	-

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向(対前年実績)」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」(1%超増加)、「→：前年並み」(増減1%以内)、「↘：減少傾向」(1%超減少)で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。